

事業コード	H17-農-再-14		区 分	国庫補助 県単独
事業名	林道事業		部局課室名	農林水産部 森林整備課
事業種別	流域循環資源林整備事業		班 名	林道班 (tel) 018-860-1945
路線名等	森山猿田沢線		担当課長名	森林整備課長 佐々木誠
箇所名	森山猿田沢線(南秋田郡五城目町兎品沢)		担当者名	主幹(兼)班長 小滝光和
総合計画との関連	政策コード	N	政策名	豊かな自然と調和した個性あふれる農林水産業の振興
	施策コード	05	施策名	豊富な森林資源の循環利用による林業の推進
	指標コード	02	施策目標(指標)名	林道・基幹作業道密度

1. 事業の概要

事業期間	H07 ~ H19 (13年)		総事業費	13.0億円	国庫補助率	1/2
事業規模	森林管理道 幅員5.0m 延長9,200m 利用区域面積696ha					
事業の立案に至る背景	当該林道の利用区域である内川浅見内地区と五城目地区の森林は、人工林率80%以上と高く、森林整備を推進するための骨格路線として、林道開設が要望されていた。地元から、生活関連道及び森林レクリエーションエリアへのアクセス道としての林道開設が強く要望されていた。					
事業目的	森林整備を実施するための基盤整備。 森林施業の集約化や機械化を通じた効率的な施業の実施。 林業生産コストの低減。 集落間の連絡道路として、緊急時の迂回路としての役割。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		1,300,000	1,300,000	0	
	経費内訳	工事費	1,177,876	1,177,876	0	
		用補費	124	124	0	
		その他	122,000	122,000	0	
	財源内訳	国庫補助	650,000	650,000	0	
		県 債	292,000	292,000	0	
		その他	325,000	325,000	0	
		一般財源	33,000	33,000	0	
	事業内容		幅員 5.0m 延長 9,200m	幅員 5.0m 延長 9,200m		
事業の進捗状況	施工済延長 (H16年度末現在) 4,316 m 全体計画延長の47% 実施済事業費 (H16年度末現在) 847,779千円 全体計画事業費の65%					
事業推進上の課題	一層のコスト縮減を図り、進度を早める必要がある。					
関連する計画等	「全国森林計画」による森林整備目標(林道の開設とその他林産物の搬出に関する事項)に基づき「米代川地域森林計画」に林道整備路線として当該路線が計画されている。 間伐等推進3カ年対策					
情勢の変化及び長期継続の理由	間伐対策が引続き緊急の課題となっており、間伐を推進するための路網整備が求められている。京都議定書の発効に伴い、「地球温暖化防止大綱」や「地球温暖化防止森林吸収源10カ年対策」に基づき、適切な森林の整備を着実に進める必要がある。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	県全体おける林内路網密度				
	指標式	林内路網密度 = 林道延長 ÷ 民有林面積				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	7.5 m/ha		データ等の出典	林道事業績報告	
	実績値 b	6 m/ha				
達成率 b/a	80.0 %		把握の時期	平成17年6月		

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	特になし			
	指摘事項への対応			
	特になし			

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	計画路線の利用区域内人工林率は約90%であり、適切な森林の整備を必要としている。 京都議定書の発効に伴い、地球温暖化防止対策に貢献する森林整備の重要性が増大してきている。	13点
緊 急 性	間伐を必要とする4～9齢級面積が88%を占めている。 間伐等推進3カ年対策と連携しており、引き続き間伐を早急に推進する必要がある。	10点
有 効 性	間伐材の利用により、森林資源の循環利用に貢献できる。 地域の生活関連道路及び森林レクリエーションエリアへのアクセス道としての利用が期待できる。 集落間の連絡道路として、緊急時の迂回路として利用できる。	13点
効 率 性	事業の費用便益比は3.02である。 ・総費用 975,589千円 ・総便益2,947,244千円 更にコスト縮減を図る。	26点
熟 度	施設の管理体制及び維持管理に十分配慮がされている。 全体計画や詳細設計及び施工実施において、環境保全への配慮がなされている。	20点
判 定	ランク () 必要性については、事業の進捗状況から低評価となっているが、間伐対象森林が、人工林の88%にも達しており、林道整備による有効性・効率性が高いことから、引き続き実施すべきである。	82点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度は高く、事業は継続して実施すべきと考える。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

森林の適切な整備と森林施業の効率化を図る基盤として重要な役割を果たすことから、計画どおりの完成を目指し実施する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 林道事業

事業コード(H17-農-再-14)
箇所名 (森山猿田沢線 (南秋田郡五城目町兔品沢))

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	計画の進捗状況	事業の進捗状況	計画より進捗している：進捗率100%以上 おおむね計画どおり進捗している：80%～100%未満 計画より遅れている：80%未満	10 5 1	5	
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 課題はあるが、当面進捗に影響がない 課題解決が困難である	5 3 1	3		
	社会情勢における必要性	社会経済情勢変化による需要変化	需要は増大している 需要に特に変化はない 需要は低下している		5 3 1	
	計		20	13		
	緊急性	森林整備状況	要整備森林の占有度	利用区域の4齢級以上の蓄積が70%以上 利用区域の4齢級以上の蓄積が70%未満	5 3	
他事業との関連		他事業との連携	他事業と連携しており、緊急性が高い 他事業と連携が無く、緊急性も低い	5 3	5	
計			10	10		
有効性		開設による有効性	間伐材等の活用	活用可能な全てに活用 一部使用 使用なし、または、検討中	5 3 1	3
	森林整備計画	森林整備計画に対する達成率100%以上 森林整備計画に対する達成率90%～100%未満 森林整備計画に対する達成率80%～90%未満	10 7 5	7		
	上位計画への貢献度	あきた21総合計画	事業の効果達成率が100%以上(事業評価) 事業の効果達成率が80%～100%未満(事業評価) 事業の効果達成率が80%未満(事業評価)		5 3 1	3
	計		20	13		
	効率性	事業の投資効果	費用対効果指数(B/C)	B/C = 1.45以上 B/C = 1.45未満	10 5	10
コスト縮減の検討		コスト縮減計画	実施している、または、今後実施する予定 実施していない、または、検討中	10 1	10	
計画の効率性		設定工期	設定工期内に余裕を持って完成が見込まれる(80%) 設定工期に完成が見込まれる 設定工期を更に延長する必要がある	5 3 1		1
事業費の増減		当初計画事業費以内 30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 1	5		
計			30		26	
熟度	地元との合意形成の状況	事業関係者、関係機関との協議・調整	基本事項が確認済 協議中であるが、特段の問題はない 今後協議する予定	5 3 1	5	
	施設の管理体制	林道管理規定等を制定している 林道管理規定等を制定していない、または、今後制定する予定	3 1	3		
	施設の維持管理	維持管理費を毎年予算化し、適切に管理している 維持管理費を必要な年のみ予算化し、適切に管理している	5 3		5	
	環境との調和への配慮状況	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で、検討している	7 3		7
	計		20	20		
合計			100	82		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		